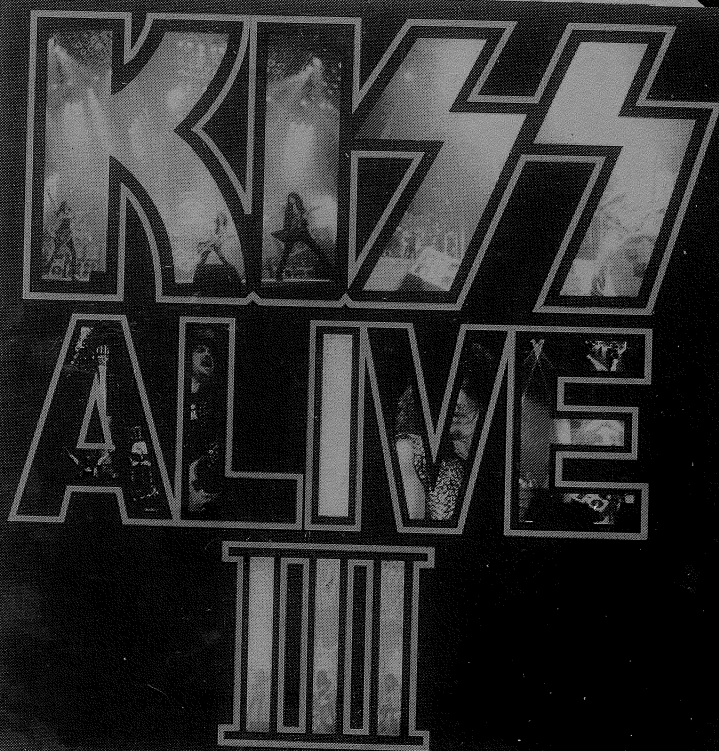


20TH ANNIVERSARY!

* since *Kiss* was born



KISS
ALIVE
III

L. F.
VOL. 75
93/5/22

THE CONSUMMATION OF A MEAL

— Gene Simmons and Paul Stanley —

ジーン・シモンズ、ポール・スタンリーとのインタビューの前に、僕はジーンとポールにとって面白いインタビューになるだけでなく、これを読む人々にも、今まで知らなかった明確な情報や事実を伝えることが出来るかもしれないと思い、ふたりが今までにあまり聞かれたことがないような質問を選んだ。1992年12月17日、前述の質問事項を用意して、僕は彼らが泊まっているサンフランシスコのホテルを訪ね、夕食をとっていたジーンとポールにまぜてもらって、以下のインタビューを行なった。

Arash Moussavian: 『Revenge』アメリカン・ツアーの、これまでの観客動員状況はどんな感じですか？

Paul Stanley: ひどい時もあるし、すごく良い時もあるな。今はほとんどのバンドがツアーに関しては苦勞してるよ。俺達はビジネス面での影響を受けないように努力してるけど、実際、今はどのバンドのレコードセールスも良いとは言えないし、コンサートの観客動員も良くないね。みんなに「ツアーは止めとけ」って言われたよ。「じっと待ってろ」ってさ。でも俺達はプレイするのが好きだし、別に何かを期待してツアーに出たわけじゃないんだ。

AM: アルバムリリース時からアルバムがビルボード誌の6位に入った頃まで、『R. I. P.』『サーカス』『ヒット・パレーダー』といった、文字通りあらゆる音楽誌の表紙を飾っていたので、僕の友達の多くが「あの頃ツアーに出ていれば良かったのに」と言っていたのですが、やはりステージの準備が完了していなかったり、一時的な景気後退で悪い時期だったことが影響していたのですか？

Gene Simmons: それは我々には関係ないよ。

AM: 1990年の『Hot In The Shade』ツアーは驚異的でしたが、今回はあらゆる面で時代が変わってしまいました。

GS: 願わくば、来年は、我々にだけでなく、みんなにとってより良い年になって欲しいね。君はI. B. M. をクビになった7万人の連中の話をしてるんだらうが、どこでもそうさ。我々の会社も閉鎖されている。誰もが大変なんだ。だけど我々は幸運なことにやりたいことができるし、景気が悪いからこそ、我々の存在をファンに見せなくてはいけないと思ってるんだ。良い時も悪い時も、KISSは同じさ。

AM: ポール、『Crazy Nights』のヨーロッパ・ツアーとソロ・ツアーの間、あなたはスタインバーガーのギターをメインで使っていましたが、それは当時あなたが、背中に広範囲に渡る痛みを持っていたことが原因ですか？

PS: うん。背中にちょっと問題があったのと、首に重いギターを下げっぱなしでいるのがかなりキツかったからなんだ。俺もスタインバーガーの見た目は好きじゃなかったんだけどね。なんだか(ボートの)オールか、何かをかきまぜるへらみたいでさ。だけど選んでる余裕なんかなかったんだ。

ファンのほとんどが、あの形を嫌ってたのも知ってるよ。音は良いんだけど、どう見てもロックンロール向きだとは思えないよね。

AM: ですが、あなたは『Hot In The Shade』のツアー中にも車の事故で肋骨を打っているのに、あの時はレスポールのような重いギターを使い続けてましたよね。

PS: あの時は、背中には問題なかったからね。背中に支障があると、大きなギターをかけたのはすごく大変なんだ。特にソロ・ツアーの時は『Crazy Nights』ツアーの終わりの頃で、俺もプレイするのに疲れきってたんだけど、そのまま続けたかった。そのためには軽いギターを見つけなきゃならなかったのさ。

AM: ギターと言えば、ジーン、ここ2回のツアーでは、オノ型のギターを使っていませんよね。あれはパフォーマンス用としてピッタリだと思うのですが、このところ使っていないのは、やはりその重さのせいですか？

GS: いや、サウンドの面では、どのベースも良い音を出すんだが、パフォーマンスの重要性和、ヴァリエティの豊かさを考えると、ギターを変えてみた方がいいのさ。

AM: そうですね。パニッシャーは素晴らしいと思いますよ。

GS: 良い音を出すんだ。弾きやすいし、デザインもいい。

AM: ゆうべ(サクラメント)は赤と黄色のフレーム・デザインの、新しいものを使っていましたね。

GS: 同じやつだよ。あれもパニッシャーだ。色違いさ。

AM: 両方とも販売されるんですか？

GS: ああ。いずれはメーカーを変えるつもりだがね。

AM: 『ケラング』誌によると、『Alive III』が来年の6月から7月に出るそうですが、そのアルバムには『Love Gun』以降の曲が入るのですか、それともバンドのこれまですべての歴史に及ぶものになるのでしょうか？

PS: いろいろな点で、『KISS Alive』の再現に近いものだね。KISSの代表曲のライブが入ってるんだからね。言い換えると、『KISS Alive』には最初の3枚のアルバムからの曲、『KISS Alive II』はそれから後の3枚からの曲、『KISS Alive III』はすべてのキャリアからの曲が入ってるわけで、だからもっと広範囲のものだよ。

AM: 『Alive III』のリリース後、夏にツアーをやる予定はあるんですか？

PS: 可能性なら何でもあるけど、その頃のアメリカの景気は最悪になってるかもしれないからなあ。

AM: ジーン、ゆうべ僕が日本とオーストラリアへのツアーの件についてお聞きしたところ、日本で大晦日にプレイする予定だとはっきりおっしゃっていましたが…。

GS: 違う、違う。「行きたい」と言ったんだ。

AM: すみません、勘違いしました。

PS: 俺達が「したい」と言ったことが「している」に変わっ

てるなんて、よくあることさ。だけど真実だったためしがない。俺達が「何かをしたい」と言うと、誰かがファンクラブの会報や新聞に「KISSはニューヨークでいついつプレイする」と書くんだ。でも俺達はやらないわけだから、みんながガッカリすることになるのさ。起こらないことの方が多いんだよ。

AM: ジーン、あなたが『Animalize』ツアーか『Asylum』ツアーのどちらかの時、ニューオーリンズでのショーをあなたはエース・フレリーとピーター・クリスと呼んで、ステージでジャムを行なうことにした、とインタビューで話していたのを思い出したのですが、エースは同意したけれど、ピーターはそのショーの宣伝を「KISSフィーチャリング・ピーター・クリス」としなければやらない、と言ったというのは本当ですか？

GS: ああ。

AM: 僕は少し前にピーターとインタビューをしたのですが、彼はあなたとポールにかなり悪意を持っています。僕は再結成ツアーが実現する可能性はないように思うのですが。

PS: 俺達が「やろう」と言えば、実現は簡単なんだ。俺は今のピーターの、とても成功しているとは言えない状態より、見当外れの怒りや悪意の中に悲痛なものがあると思うんだけどね。自分のビッグ・チャンスをついに失ってしまったら、誰だって頭にくるだろう。残念なことだけど、時々人は自分以外の人間に責任を転嫁してしまうものなんだ。再結成は、俺達が「やろう」と言った1分後には実現可能だよ。だけどそんな予定はないし、俺達にも是非やりたいというような気持ちはない。その話だけが怒りを助長してるのさ。

AM: ヨーロッパ・ツアーの間は、ゲイリー・コーベットがキーボードを弾いていましたよね。彼からデレク…シェリニアンでしたっけ？…に変わった理由は何ですか？

PS: シェリニアンだよ。君達と同じ民族さ。

AM: そうですね、彼はアルメニア人のハーフで、僕はイラン人ですが、僕らの姓には“-ian”がつくんです。

GS: 隣人、ってところだろう？

AM: その通りです。

PS: 別に特別な意味なんてないんだ。キーボード・プレイヤーは、ライブでホールの低音部の限界を補足するために使ってるんだ。音を響かせたいからね。キーボードはギターに沿ったプレイができるし、音を厚くする。だけど正直な話、優秀なプレイヤーなら誰だって構わないんだ。ゲイリーは今、もっと彼にピッタリするバンドと一緒に活動してるはずだよ。そして俺達もデレクのような良いプレイヤーを手に入れることができラッキーだった。まあ、KISSのキーボード・プレイヤーはギターのパートを弾くわけだから、クリエイティブなことではできないし、誰にでもできることなんだ。だからゲイリーからデレクに、ハリー、ステイヴと変わっていったとしても、そのパートを弾いている限り、大した違いはないんだよ。

GS: バンドのライブを聴いていても、キーボードは聞こえないと思うしね。

AM: そうですね。ポールのソロ・ツアーの時のほうが、ゲイリーのキーボードもよく聞こえていました。

PS: キーボードの音を多少大きめにしていたからね。ソロ・アルバムの曲でも他の曲でも、抑えておく必要なんてなかったからさ。でもKISSでは、ギターの音が中心なんだよ。

AM: ジーン、あなたはまた火吹きをやっていますが、最近、ヒゲをたくわえていることで、火傷を負う危険性が高まっていると思うんです。これまでにヒゲや髪の毛にアクセントがあったことはありますか？

GS: いや。自分のしてることはわかっているからね。他の人間が真似しないことを祈ってるよ。

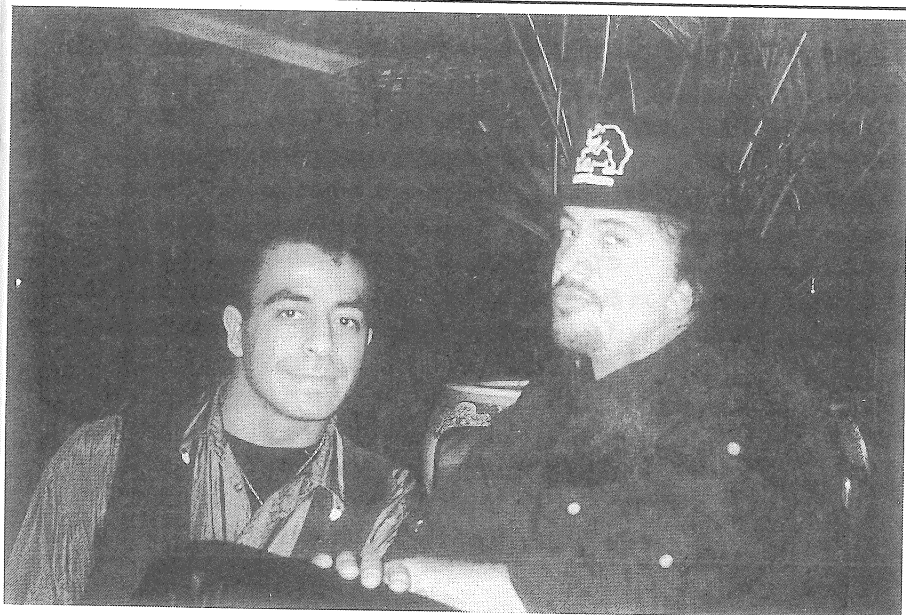
AM: KISSのロゴについてですが、最初のツアーの時から、あなた達はスチールと電球でできた伝統的なものを使っていましたが、今回は銀色の布のようなものを使っていましたね。このような転換をした理由を知りたいのですが？

PS: まあ、ショーの終わりにKISSのサインが上下する、みたいな、代わり映えのしないことをしたくなかったからね。それとKISSのサインがあまりに大きなものになってきたために、他のものに限界がでてしまったんだ。『Hot In The Shade』の時は、スフィンクスの頭の後ろにロゴを持って

くることでなんとか上手く処理できたけれど、今回は違うことをやりたかったのさ。

AM: あれは良かったですね。ライトが当たると、色が変わったりして。さて、セットリストの選択には苦勞していると思いますが、どんなふうを決めているんですか？

PS: まず、どの曲を省きたいかを考えるんだ。ただ加えていくわけにはいかないからね。だから、今回はこの曲をやらなきゃいけない、というふうには考えないようにしたんだ。出しているアルバムが17、18枚なら、1枚の



アルバムから2曲ずつ、やらないきゃいけない曲を選べば34曲になるから、それでショウができて上がるんだけどね。

AM: ツアーの最初の頃より数曲減っているようですよ。ショウのハイライトは、“Take It Off”でストリッパーがステージに登場するところだと思うんですが…。

PS: “Take It Off”は、ほとんどのショウでやってきているんだ。ショウの前に、俺達はストリッパーをチェックするんだよ。最初はツアーに同行させていたんだけど、今は毎晩、やってきたストリッパーをチェックしなきゃならないんだ。ゆうべ来たのはとんでもなかったね。面食らったよ。

AM: 最初からツアーに同行させていたんですか。

PS: うん。でも、もう彼女達は帰したけど。

AM: で、今はその土地でオーディションをしてるんですね。

PS: そうだよ。ショウの前に来た彼女達を、俺達が見てね。良いか悪いかによって、その曲をやるかやらないか決めるんだ。ゆうべはどう見ても明らかだったんで、やらないことに決めたのさ。

[ちなみに、『Revenge』ツアーの最後の4日間のうち、“Take It Off”を演奏したのは12/18のオークランドと12/20のフェニックスのみ]

AM: “Black Diamond”についてですが、エリック・シンガーが歌うかもしれない、という話があったそうですね。

PS: ああ、ゆうべエリックがその話をしてた。フェニックスで歌いたってね。実際、エリックは歌がうまいんだ。ものすごい不運に見舞われもしたけれど、驚いたことにウチのドラマーはみんな、しゃがれた威勢のいい声をしているんだよね。俺達はエリックが歌えなくても加入させるつもりだったから、彼が歌えることはボーナスだよ。彼の声はロッド・ステュワートみたいに聞こえることがあるんだ。

AM: 『Smashes, Thrashes & Hits』のリリース後、前がアルバム・カバーで、後ろに“LIVE TOUR '89”とプリントされたプロモーション用のシャツが出ていたんですが…。

GS: 見たことがないな。

AM: 前回のツアー中にブルースにも聞いたんですが、彼は最初あなた達はそのアルバムのツアーをしたかったが、その後やらないことに決めた、と言っていましたよ。

[ブルースのインタビューで同じ質問を試みたところ、彼は前回の返答を取り消し、バンドはこのアルバムのツアーをする予定はなかったと答えている]

PS: それは違うよ。

GS: ツアーをやらなかったのは、我々がそのカバーをデザインしたのはツアー中のパリで、もうツアーが終わろうとしている時だったからさ。(ボールに)お前は何か覚えているか?

PS: ああ、『Crazy Nights』ツアーが終わるところだったから、もうツアーに出るつもりなんてなかったんだよ。実際、『Smashes, Thrashes & Hits』は、ツアーしないのがわかってたからリリースされたんだ。

AM: 『Revenge』から“Thou Shalt Not”のリリース、あるいは“God Gave Rock And Roll To You II”再リリースの予定はありますか?

PS: 今後どうなるかなんて全然わからないけれど、“Every Time I Look At You”は、なかなか良い様子だね。できれば“Thou Shalt Not”を出して、次に“God Gave Rock And Roll To You II”を出したいけど、どうかな。



AM: 僕は『Creatures Of The Night』は素晴らしいレコードだと思っているんですが、当初このアルバムは、『Music From The Elder』の後に出たということから、ファンから不当な評価を受けましたよね。もしも『Killers』が4曲の未発表曲を収録したEPとしてリリースされていたら、『Creatures Of The Night』がもっと公正な評価を受けるためのお膳立てができたと思いますか?

PS: ファンに理解されないようなことをしたり、彼らを見捨てるようなことをしていると思われたら、彼らはもう戻ってこないと思うな。誰かを侮辱したり鼻にパンチを食らわせるようなことをしたら、次の日には相手にされなくなって「もういいよ」って言われるだろう。一週間以内に戻ってくるかもしれないし、1年以内に帰ってくるかもしれないけど。だから俺達は、おかしなことを続けるつもりはなかった、という信用を再建しなけりゃならなかったんだ。

『Music From The Elder』は愚行だったからね。

AM: 僕は今でも素晴らしいアルバムだと思っていますが。

PS: それはどうも。君とあと10人くらいかね。

GS: デレク&ザ・ドミノズの“Layla”を買った時のことを思い出すよ。私は「これは今年最高のレコードだ」と思ったが、友達は誰もそのレコードを持っていなかった。成長してから、私はそれが大傑作だったことに気づいたんだ。つまり、ああいった素晴らしい曲の一杯入ったレコードは、振り返ってみれば、最初にリリースされた時から傑作だったわけだし、歴史がそれを素晴らしいレコードだと判断してくれるものなのさ。

AM: 『Killers』をEPとしてリリースするという話はあったんですか？

GS: なかったよ。

AM: あなた達は最近、レコード会社と新しい契約を結びましたね。その契約のレコード枚数には、ソロ・アルバムやグレイテスト・ヒッツが含まれているんですか？

PS: 契約内には不定のものがたくさんあるし、その期限内に俺達がどんなことをするかにもよるんだ。だから俺達に何枚のアルバム契約があるか正確に言うことはできないな。それを決める要因があまりに多いからね。

AM: 『Smashes, Thrashes & Hits』は、ピクチャー盤もその契約に入っているというのは本当ですか？

PS: それじゃ全然意味がないだろう。俺は違うと思うけどな。もし君が俺達の弁護士だったら、徹底的に契約を果たしてくれそうだな。

AM: 僕個人は『Smashes, Thrashes & Hits』を非常に気に入っているのですが、シングルLPだったためにバンドの財産を代表するものになっていませんよね。バンドの過去をすべて振り返るものとしては、完璧とは言えないと思うんです。2枚組にしなかったのはレコード会社の決定だったからですか？

GS: そうだよ。要するに、レコード会社はグレイテスト・ヒッツ・アルバムが欲しかっただけなのさ。

AM: ジーン、1987年のインタビューで、あなたとポールはソロアルバムの製作中だと言っていたのを思い出したんですが、現在、ソロアルバムのリリース予定はあるんですか？

GS: 誰が私がソロアルバムの製作中だなんて言ったんだ？

AM: いえ、あなたがインタビューで答えていたんですが…。

GS: どのインタビューで？

AM: イギリスでやったインタビューです。

[この時点では、ジーンは僕の言ったことを全く信じておらず、テーブルの向かい側のポールを見て、次のように言った]

GS: どうしてそんなふうに話が変わってしまったんだろうね。昨日の、我々が大海日に日本でプレイするという話みたいだ。ポールが1987年にソロアルバムの作業を始めていたのかもしれないな。

PS: 俺もやってないよ…。

AM: あなた(ジーン)が、1988年に出ると言っていました。

GS: 我々はスタジオに入っていないし、曲を書いてもないよ。1987年と言えば我々は…。

AM: 『Crazy Nights』製作中に、ヨーロッパへプロモショナル・ツアーに行った時の話です。

GS: それは、我々が契約の一部にソロアルバムを入れた、という話だったんじゃないかな。

[ここで話題になっているのは『Fifteen Years On』というピクチャーCDに入っている話である。翌日彼らの泊まっているホテルにダビングしたテープを持って行ってポールにジーンがソロ・アルバムの質問に答えている部分を聞かせたところ、ポールは「面白いね」とコメントした。その夜、ジーンにもテープを渡し、その内容を説明したところ、彼は笑って「君を信じるよ」と言った]

AM: 『The Best Of Solo Albums』についてですが、あなた達は、このコンピレーション・アルバムにどの曲を入れるかについて何か言いましたか？

PS: 俺は言ってないよ。

GS: 我々は、それが出て数年たつまで、そのアルバムのことさえ知らなかったんだ。

AM: ポール、僕の友達が多くが、『Crazy Nights』は、あなたの2番目のソロ・アルバムだと言うんですが。

PS: そんなことはないさ。それを言ったら、入っていない曲がたくさんあるんだぜ。どのアルバムも譲歩して作ってるんだ。バンド用の曲だけじゃないよ。ソロ・アルバムでも、入れたかったれど、入れなかった曲が何曲もあるんだ。ソロアルバムっていうのは、もっと個人的であるべきだと思うな。バンドのアルバムはグループの努力の成果であり、ソロアルバムはもう少し個人的な部分が反映されていなくちゃいけないよ。

AM: この問いにはどちらに答えていただいても結構なんですが、『Destroyer』のLPの最後は、“Do You Love Me”に続いて、割とサイケデリックな音で終わっていますよね。“Great Expectations”と『Alive』からのステージでの喋りが組み合わせられたものですが、なぜあれをLPに入れたんでしょうか？

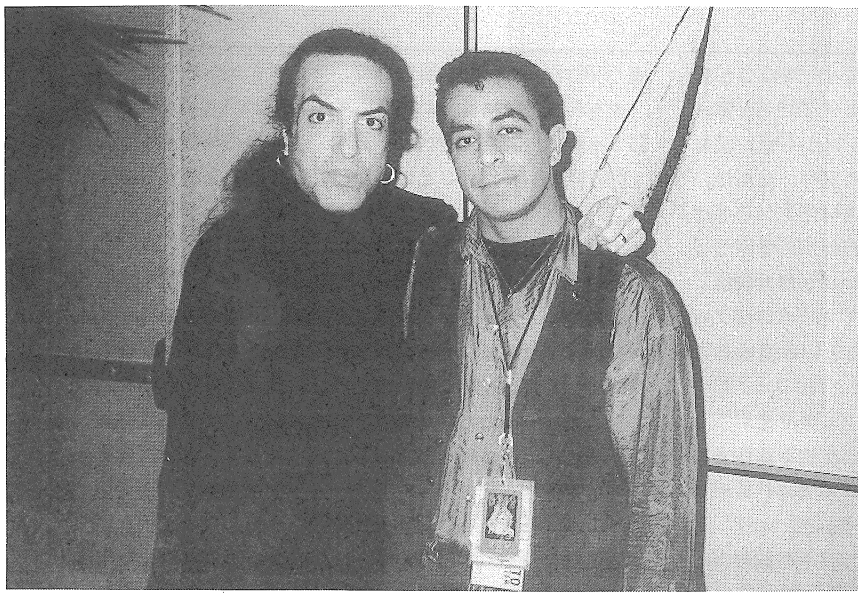
PS: あれを収録したのは、アルバムの長さが充分でなかったからなんだ。ボブ・エズリンがアルバムを引き伸ばす方法をいろいろ考えていて、ステージ・ラップと“Great Expectations”をオーディエンスの声と一緒にミックスするアイデアを思いついたんだ。なかなか面白いと思うけど、レコードを埋めなきゃならなかったというのが、もともと理由だったんだよ。

AM: ロン・ネヴィンソンとボブ・エズリンの製作スタイルの違いについて教えていただけますか？

PS: エズリンの方がずっと大胆だね。彼はソングライターでもあるし、教育を受けたミュージシャンなんだ。彼は個人的な感じ、驚異的なクオリティを持ったものを作るのにすごく役立ってくれるんだ。ロンはもっと洗練されてるね…。

GS: ポップなんだよ。

AM: あなた達のデビュー・アルバムのオリジナル・プレスの



“Nothin' To Lose”はスタジオ・ヴァージョンですが、セカンド・プレスには『Alive』ヴァージョンが入ってるんですよ。僕はカセットも持っています。

PS：本当?!

GS：ファーストに?

AM：ええ。

PS：へ〜!

GS：全然知らない。聞いたこともないよ。

AM：ジーン、『Rock & Roll Over』に入っていた“See You In Your Dreams”をソロ・アルバム用に再録音しようと思ったのはなぜですか?

GS：KISSでやったのは気に入らなかったんだ。曲のデモを録り始める時は、心の中にサウンドができていたが、アレンジはまだ決まっていなかった。誰かがバンドに曲を持って来たら、みんなでそれぞれのフィーリングを足して行って、あるべき形にするのさ。曲を書いた時点から変化していくんだよ。大抵はそれが上手くいくんだがね。

AM：それであなたは自分がびったりだと思ったように改良しようとして再録音したんですか。

GS：そうだ。だが、私はどちらのヴァージョンも気に入らなかった。頭の中にあっただけのもっと“ハンブル・パイ”的な音だったんだが、それよりずっとポップなサウンドになってしまったからね。

AM：ウェンディ・O・ウィリアムズのアルバムはあなたがプロデュースしていますが、レジナルド・ヴァン・ヘルシングという偽名でベースも弾いていますね?

GS：ああ。

AM：ところで、数年前、KISSはポリグラムを相手にした訴訟で52万ドルを手に入れましたが…。

GS：何の話だい?

PS：それは違うよ。俺達は勝訴したけど、それはもう10年前の話さ。

AM：僕は“Who Wants To Be Lonely”と“Uh! All Night”がシングルとしてオフィシャルにリリースされなかったことについてだと思っていたんですが。

PS：ノー。

GS：それに関しては何も起こってないし、我々はその金額が何なのかも知らない。

AM：『ディスカヴァリーズ』という雑誌に載っていたんです。彼らはあなた（ポール）とインタビューもして、その件についての質問も質問もしていますよ。

PS：俺は答えてないよ。

AM：あなたはこの訴訟に勝ってその金額を得たと言っていました。明確な理由は語っていませんでしたが。

PS：そんな質問をされた覚えもないよ。俺達は一度訴訟を起こしたけれど、それはゆーに10年から12年前の話だ

し、全然関係ない件だった。

AM：ですがいまだに前述の2曲および“Unholy”と“I Just Wanna”も、公式にシングルとしてリリースされていませんよね。これはバンドにとって不利益なことですよ。

GS：君はレコード会社の社長になるべきかもしれないね。そうすれば我々は望み通りのものを得られそうだ…。

AM：あなたはホラー映画の大ファンですよ、ジーン。ブルーム・スターカーの『ドラキュラ』をご覧になっていたら、感想を聞かせてください。

GS：つまらなくてガッカリしたね。ゲイリー・オールドマンは、俳優としてはいい仕事をしたけれど、彼のドラキュラは好きになれなかったよ。ウィノナ・ライダーはかわいい、抜けた女の子といった感じで、この手の映画には必要ないんじゃないかな。キアヌ・リーブスは自分の本領を失っていた。脚本もお粗末だったし、小道具は素人レベルで、まるでテーマ・パークみたいだった。ひどい映画だったね。

AM：あなたは観ましたか、ポール?

PS：徹底さに欠けてると思ったね。観る分にはいいけど、買おうとは思わなかった。一流のホラー映画を観ていたら、この映画には感動できないな。

GS：『パンプキンヘッド』が『ドラキュラ』を葬ったみたいだな、シケた映画だね。だけど、雰囲気や恐怖感を持っていたな。最後にゲイリー・オールドマンが怪物に変身する特殊効果は驚異的だった。最後の10秒で救われたね。最後でようやくムードが保てたよ。

AM：ポール、ジーンはエリック・カーが彼にしたイタズラの話をよくしていますが、あなたもエリックがしたイタズラで覚えているものはありますか?

PS：エリックは何でもマンガやコントみたいに考えるところがあったね。自分の周りに起こったことを、詳しく話してくれたよ。俺が覚えているのは、ショウの前、楽屋でみんなが準備をしている時、彼がフランケンシュタインみたいなメイクをしたことだな。鼻の穴を黒く塗って大きくして、顔に傷跡を描いた写真が何枚もあるよ。ステージにある直前だぜ。それをすぐ落とさなきゃならないのにさ。

まったく、本当に面白いヤツだったよ。

AM: ジーン、“Betrayed”の詞の内容はあなた自身の個人的な経験が何かの形でベースになっているんですか？

GS: 別に。

AM: この国での移民として、あなたが直面したこと、たとえば一種の偏見とかは関係していませんか？

GS: まあ、この国でも他の国でも、よそから来た人間なら、誰でも自分がよそ者だって気分になるものさ。言葉が喋れないと、すぐにバカ扱いされる。だけどそれでいいんだ。いいハードルになるし、言葉を学ぶいい刺激になる。でも“Betrayed”はもっと、自分の得たものに対する感謝を表わしているんだ。「どんな悪い時でも、自分に何が起ころうと、お前は笑いものにされているわけじゃない、世の中には、もっと悲惨な経験をした人間だっている」ってね。この曲のポイントは、「しっかりしろ、物事はお前が考えているほど悪いもんじゃない」ってことなんだよ。

AM: ジーン、あなた同様、僕も中東の生まれですが、僕はイランで生まれてアメリカに来たイラン人と、この国で生まれたイラン人との間には、性格や態度の面で違いがあるように思っています。あなたも中東生まれのユダヤ人とアメリカ生まれのユダヤ人の違いを感じたことはありますか？

GS: 世界中のイスラエル人とユダヤ人の間には山ほどの違いがあるよ。全く違う。イスラエルの方が、よりラテン系

の気性を持っているような気がするね。

AM: 生き抜くために、より忍耐強い？

GS: そうだ。君もそうあらねばならない。アメリカのユダヤ人は甘やかされているよ。イスラエルにいる連中はユダヤ人だが、そこで生まれた連中は、まず自分達をイスラエル人だと思い、次にユダヤ人だと思う。だからイスラエルの外にいる連中は、まず自分達をユダヤ人だと思うんじゃないかな。中東出身のユダヤ人とアメリカのユダヤ人には、明らかに見た目の違いがあるよ。中東のユダヤ人の方が色が黒く、日に焼けていて、より地方色豊かだ。そしてヨーロッパのユダヤ人はヨーロッパ人風だし、それはポーランド人やロシア人も言える。だけど気性は全然違うね。

AM: 新譜のアルバム・カバーは面白いですね。僕は個人的にこれは“KISSマシン”と“KISSの存在”を表わしていると思ったんです。どのように20年間続いてきたか、多くの戦いをやり過ごしてきたか、そして人々がそれに対してどれほど、いわば“あてこすり”のようなこと言ってきたか、といった。これは当たっていますか？

PS: まあ、ある意味ではね。擦り切れて、ぼろぼろになって、“クタクタ”ってことさ。だけど今も不屈だよ。

AM: インタビューに応じて下さったことに対し、おふたりに感謝します。ありがとうございました。

PS: ありがとう。



The Consummation of a Meal
Gene Simmons and Paul Stanley Interview by Arash Moussavian

In preparation for the following interview with Mr. Gene Simmons and Mr. Paul Stanley I deliberately set out to devise a set of questions that Gene and Paul are not repeatedly asked in interviews. By doing so I would not only make the interview interesting for Gene and Paul, but also for the readers who might attain certain information and/or facts that they were not aware of. Thus, while I believe that it was obligatory to ask certain standard questions, I also attempted to include certain questions that Gene and Paul would find entertaining. Judging from their reaction and subsequent responses I would argue that "entertaining" is an understatement. With the aforementioned criterion in mind I visited the hotel Kiss were staying at in San Francisco, California, and joined Gene and Paul during dinner to conduct the following interview on 12/17/92.

Arash Moussavian: How has the American leg of the Revenge Tour been doing thus far in terms of attendance?

Paul Stanley: Some of it has been terrible, and some of it has been very good. Most bands right now aren't even bothering to tour. We try not to get involved in the business (aspect), but the truth is that record sales for every rock and roll band right now are not very good, concert attendance is not good and many people told us, "Don't go on tour." They told us, "Stay home and wait." But we like to play, and we didn't go out on tour expecting anything except whoever would show up we would do the best show we could. So some shows have been great, and some have been very, very bad.

AM: When the album first came out you were on the cover of literally every (music) magazine (including): R. I. P., Circus, Hit Parader, and a lot of my friends said, "That was the perfect time for them to go out on tour." It was still summertime, and the album begun at number six on the Billboard (magazine Top Pop Albums) chart. But I guess as far as stagewise you weren't quite ready to go out at that time, and I could certainly understand (that) with the recession it has been bad.

Gene Simmons: It doesn't affect us.

AM: Well the Hot In The Shade Tour did phenomenal in 1990. But now it is a different time altogether.

GS: Hopefully it will get better next year for everybody, not just (for) us. You are talking about seventy thousand (workers) today being laid off by I. B. M.

AM: Right, and another company laid off twenty-five thousand workers.

GS: Yeah, all over the place. Our company is shutting down. It's tough for everybody. But we are lucky enough that (we) can get to do what we want to do, and just because the economy is bad we feel we owe the fans to get out there and show them that we're here. Good times and bad times there's always Kiss.

AM: Do you plan to release Thou Shalt Not as the next single or re-release God Gave Rock 'N' Roll To You II off of Revenge?

PS: I don't know that we're sure what's going to happen next. Right now the ballad (i. e. Every Time I Look At You) is out, and that's beginning to do very well. If it does as well as we hope we will either come with Thou Shalt Not, and then go to God Gave Rock 'N' Roll To You II, who knows.

AM: Gene, is the lyrical content of the song Betrayed in any way based on your own personal experiences. . .

GS: No.

AM: . . . which you faced as an immigrant to this country? Any prejudice of some sort?

GS: Well anybody that comes to this country or any other country always feels like an outsider. If you can't speak the language people immediately think you're stupid. But that's okay. That's a good hurdle, and it's a good incentive to learn the language. But Betrayed was really much more (about being) thankful for what you got because no matter how bad times are, (and) no matter what's going on with you you're not crucified. There are other people who have had worst things done to them. Basically the point of the song is (for you to) keep your head up (because) things aren't as bad as you think they are.

AM: With regards to Creatures Of The Night (I believe) it's a phenomenal record, (but) it initially only received a lukewarm response from the fans due to the fact that it came after Music From "The Elder". Do you think that if Killers was released as a four-track e. p. with the four unreleased songs then that would have set the stage to permit Creatures Of The Night to receive a fairer recognition? Because then the fans would have thought that you are back doing rock and roll (music).

PS: I think that when the fans feel that you have deserted them, or do something that they don't understand they don't come back the next day. If in some way you insult somebody, or punch them in the nose they don't come back the next day and say, "You're forgiven." They may come back in a week, (or) they may come back in a year. So I think we had to rebuild confidence that we weren't going to continue to do crazy things, because Music From "The Elder" was lunacy (and) idiocy.

AM: I still think it's a great record.

PS: Good, you and ten other people.

GS: I remember when I bought Layla by Derek And The Dominos. I thought, "Wow, it's the record of the year." None of my friends had it. Later when I grew up I found out it was a bomb. So a classic record like that when it first came out had an awful lot of good music on it that in retrospect history judges it to be a classic record.

AM: Well was there ever any talk of releasing Killers as an e. p. or not?

GS: No.

AM: With respect to Smashes, Thrashes & Hits I personally think that's a great record, but since it's only a single l. p. it's not representative of the legacy of the band. What was the reason for which it was not released as a double record? Was that the record company's decision to go ahead and do so?

GS: Yes.

AM: That's what I thought, because it's not a complete retrospective at all of the band.

GS: They (i. e. the record company) wanted a greatest hits album.

AM: Gene, like yourself I was born in the Middle East. I am from Iran. Personally, I've noticed a difference in character and attitude between Iranians born in Iran who (subsequently) came here, and those born here. Have you also noticed any such differences between Jews born in the Middle East, and those born here?

GS: There is a world of difference between Israelis and Jews around the world, (they are) totally different. Israelis seem to have a much more Latin temperament.

AM: Maybe more backbone also (for) survival?

GS: Sure, you have to. Jews in America are pampered. I think those in Israel who are Jewish, and are born there think of themselves as Israelis first then Jewish. I think people outside (of Israel) consider themselves Jews first. There is definitely even a different physical look to Jews from the Middle East with Jews in America. For one thing, Middle Eastern Jews look darker, swarthier, more the local color, and European Jews look European, (such as) Polish, Russian and so on. But totally different temperament.

AM: Paul, during the European leg of the Crazy Nights Tour and also during your Solo Tour, you mainly used Steinberger guitars. Was that due to the fact that you were having extensive back pain at that time?

PS: Yeah, I was having some back trouble, and it was really tough to keep a heavy guitar around my neck. I didn't like the way the Steinberger guitar looked, (because) it looked like an oar or a spatula to stir something (with). But I didn't have much choice. I know a lot of fans hated the way it looked too. It sounded good, but I just didn't think it was a rock and roll looking guitar.

AM: But you had an auto accident during the Hot In The Shade Tour and you also smashed your ribs, but you continued to use Les Pauls (on that tour) which are heavy-duty guitars.

PS: Well at that point my back wasn't bothering me. When my back was bothering me it was real difficult to throw a big guitar around (my neck). Especially because the Solo Tour was at the end of the Crazy Nights Tour. So at that point I was pretty tired from playing, but I wanted to keep going. So I figured I should find a guitar that's lighter (in) weight.

AM: Talking about guitars Gene, I've noticed for the past couple of tours you've put aside your axe guitar. I'm aware of the fact that it's strictly for performance use, and it's very heavy. Is that the reason you're not using it, because of its heavy weight?

GS: No, most of the basses sound good. But you try to change the guitars both for performance value, and also to give some variety.

AM: Well I think the Punisher guitar is phenomenal.

GS: It sounds really good. (It's) easy to play (and) well designed.

AM: I also saw a new one you were using last night (in Sacramento, California) that has a red and yellow flame design.

GS: The same one. It's the Punisher.

AM: I thought the Punisher was a black one?

GS: It's the same guitar (with a) different color.

AM: Now will both of those be marketed?

GS: Yes, although I'm going to switch guitar companies sooner or later.

AM: This question is for whoever wants to answer. The l. p. version of Destroyer ends with a rather psychedelic tune at the end (following Do You Love Me). It is a combination of Great Expectations, and your stage raps from Alive. Why was that included on the l. p. version?

PS: The reason that was included was because the album wasn't long enough. Bob (Ezrin) was trying to think of a way to extend the album, because as good as it was it was short. So he came up with this idea of taking some of the stage raps and part of Great Expectations, and mixing it together with audience sounds. It's an interesting thing (and) everybody listens to it, but the actual reason it was done was because we needed to fill up the record.

AM: Gene, with regards to Wendy O. Williams' (solo) record (W. O. W. which) you produced, did you play the bass tracks on that album under the pseudo-name Reginald Van Helsing?

GS: Yes.

AM: The original pressing of your debut album contains a studio version of Nothin' To Lose while subsequent pressings include the Alive version.

PS: Really?!

GS: Say that again.

AM: The original version of your debut album obviously contains the studio version of Nothin' To Lose, but the version I have is the Alive version of Nothin' To Lose.

GS: On the first album?

AM: Yes, the debut album.

PS: Wow!

AM: As a matter of fact both my l. p. and cassette versions do so.

GS: We know nothing about that, and I've never heard about it.

[Note that the next day I took my copy of the self-titled debut cassette to the hotel Kiss were staying at. I played the track Nothin' To Lose for Paul on my tape recorder. Upon noticing

that it was the Alive version of Nothin' To Lose Paul commented, "I was not aware of this." I further pointed out that even though my cassette copy is on the PolyGram Records label while my album copy is on the Casablanca Record and Filmworks label, both have the Alive version of Nothin' To Lose. Finally, as Gene arrived at the Oakland Coliseum later that night I showed him my copy of the self-titled debut album. He inspected the album and said that he could not tell anything by looking at the record.]

AM: Gene, with respect to See You In Your Dreams off Rock And Roll Over, why did you decide to re-record that on your solo album?

GS: I didn't like the way Kiss did it. You know what happens is that you start to do a demo of a song, you have a sound in your mind and the arrangements are pretty much open. (So) when somebody brings a song to the band everybody adds their feel, and it becomes what it becomes. It changes from the time you write it. Usually it works out well.

AM: So you re-recorded it to improve it as you saw fit.

GS: Yeah, and I didn't like my version either. In my head I heard much more a "Humble Pie thing," but it came off sounding much poppier than that.

AM: A few years ago the band won a \$520,000 lawsuit against PolyGram Records. . .

GS: What is that?!

PS: It wasn't that. We did win a lawsuit, but that was almost ten years ago.

AM: I thought it was due to the fact that Who Wants To Be Lonely and Uh! All Night were not officially released as singles.

PS: No.

GS: Nothing to do with that, and we don't know what that figure is.

AM: It was in Discoveries Magazine when they did an interview with you (i.e. Paul) where they ask you that question.

PS: I didn't answer it.

[Note that this question was asked in an interview that was conducted with Paul in 1990, and which was printed, as it appears below, in the March 1992 issue of Discoveries Magazine.]

Discoveries: A few years back, Kiss was awarded \$520,000 in a lawsuit against your record company. How does that effect your relationship with Polygram?

Paul Stanley: That's a question we don't get asked often. What ever differences we've had have always been resolved honorably. Obviously, renewing our contract for another ten years is an affirmation that we have a really good relationship. This wouldn't be the case if there was any animosity or bad feelings.

AM: Well you said that you did win a lawsuit for that amount, but you didn't

state the specific reason.

PS: I don't remember ever being asked that question. We once had a lawsuit, but it was a good ten or twelve years ago about something completely unrelated.

AM: But (the fact) still (remains that) neither Who Wants To Be Lonely, Uh! All Night, Unholy nor I Just Wanna were released as singles officially. That is really detrimental to the band.

GS: Well maybe you should be the record company president, and we would get what we wanted. . .

AM: or when I become an attorney in three years I. . .

GS: We'll work something out.

AM: Gene, now that you're breathing fire again, and with the recent acquisition of facial hair, that increases the danger of burns that might occur. Have you had any accidents as a result to your facial hair, or to your hair itself?

GS: No, I know what I'm doing. I hope nobody else tries it. Every once in a while I have to remind people.

AM: You recently signed a new record deal with the record company. Could you please state exactly how many records are included in that (deal), and whether or not that includes solo records, greatest hits compilation(s), (etc.).

PS: There are so many variables in the contract that depending upon what we turn in during (a given) period changes the contract. So with our contract we can't really tell you with any accuracy how many albums, (because) there are too many factors that determine that.

AM: I heard from a friend of mine that in addition to the original version of Smashes, Thrashes & Hits the picture disc version of Smashes, Thrashes & Hits (is) actually included as a record in that contract. Is that true?

PS: It doesn't make much sense. So I would think not. But perhaps when you become our lawyer you will be able to go through our contracts.

AM: I recently read in Kerrang magazine (issue number 420 dated 11/28/92) that Alive III will be released in June or July of the upcoming year. Will that include post-Love Gun songs, or will it span the band's entire history?

PS: In some ways it's like Kiss Alive again, because it includes all the best Kiss songs live. In other words, whereas Kiss Alive was the songs from the first three albums, and Kiss Alive II was the songs from the next three albums, Kiss Alive III is songs from our entire career. So it's much more comprehensive.

AM: Now will you plan to do a summer tour after the release of Alive III?

PS: Anything is possible, but by then America may be in a bread line selling apples on the corner.

AM: Gene, last night I asked you about going to Japan and Australia, and you confirmed the fact that you will be playing a New Year's Eve show (in Japan). . .

GS: No, no, no, (I said) we would like to.

AM: I'm sorry I misunderstood you.

PS: Very often when we say what we would like to do it turns into what we are doing, but it's not always true. So when we say we would like to do something, and then someone writes in a fanzine or in a newspaper that Kiss is playing New York City on such a date, then people get disappointed because we're not. So sometimes we tell what we would like or what we're planning, but very often it won't happen.

AM: I recall an interview with you Gene pertaining to either the Animalize Tour or the Asylum Tour (in which you discussed) playing a show in New Orleans, (Louisiana), and you (apparently) decided to call Ace Frehley and Peter Criss to jam on stage with you. Is it true that Ace agreed to do it, but Peter said that the only way he would do it is if the promotion for the show said, "Kiss Featuring Peter Criss?"

GS: Yeah.

AM: I did an interview with Peter Criss a while ago (on 7/10/92), and he has a lot of animosity towards you and Paul. I don't foresee how a reunion tour could possibly occur.

PS: I think it would very easily occur if we said, "Lets do it." I think part of the unfortunate anger and animosity is bitterness over Peter's predicament right now which is (being) not very successful. When you realize that you've blown your big chance you can become very angry. Unfortunately, sometimes you don't look in the mirror and blame the right person. A reunion would happen in a minute if we said, "Lets do it." But there is no plans and we have no desire to do it. So that alone makes for a lot of animosity.

AM: I know you're a big horror movie fan Gene. I wanted to know whether or not you have seen Bram Stoker's Dracula, and if you have, what you thought of it.

GS: Yeah, (it was) very poor (and) disappointing. Gary Oldman did a fine job as an actor, but I didn't like him as Dracula. I thought Winona Ryder was a mouse, a pinhead little girl (with) no presence for this kind of movie. I wouldn't mind her in a surf movie. . .

AM: or another Beetlejuice possibly?

GS: Yeah, she was good there. She has this little squeaky voice (that's) not at all appealing. Keanu Reeves forgot his surfboard. I thought the script was horrendous, the props were amateurish (and) looked like a theme park. It was just an awful film.

AM: How about you Paul, have you seen it?

PS: I thought it lacked any depth. It was pretty to look at, but I didn't buy it. When you see classic horror films this doesn't touch it.

GS: A small movie like Pumpkinhead buries Dracula. . .

AM: and that was a B-film.

[Note that a B-film is usually considered to be lower in financial and production standard than those categorized as A-films.]

GS: It was a B-film, but it had mood and horror. The special effect of the final transformation at the end when Gary Oldman turns into a demon was phenomenal. So for ten seconds of the film it held me. Finally, the mood captured.

AM: During the European leg of the (Revenge) Tour Gary Corbett was still playing keyboards.

[Note that up until the American leg of the Revenge Tour, Gary Corbett has played keyboards for Kiss on every tour since the Crazy Nights Tour.]

AM: Can you state why you switched from Gary to Derek. . . I believe it's. . . Sherinian?

PS: Sherinian, (who is) one of your people.

AM: Well he's (half) Armenian, and I'm Iranian. But my (family) name ends in -ian as well.

GS: Next door neighbors, right?

AM: Exactly.

PS: No particular reason. The keyboard player is somebody to supplement the band live to more or less give it a lot of low end in a hall, because you want things to reverberate. The keyboards can play along with the guitar and make it thicker. But to be quite honest, who plays it is unimportant as long as they're good. I think Gary is (now) probably putting together a band more than likely. So we were lucky to get Derek (who) is great too. The truth is that the keyboard player who accompanies Kiss is shown the guitar parts. So there is no creative input, (and) anybody who plays well can do it. So to switch from Gary to Derek to Harry to Steve wouldn't make that much difference as long as they could play the parts.

GS: I don't think you ever hear keyboards when you hear the band live.

AM: Well it seemed like when he (i. e. Gary Corbett) was on stage with you during the Solo Tour (I) could hear the keyboards more (readily).

PS: Well I had the keyboards up a little higher, because for some of the solo album stuff and other things there was no reason to keep it down. But with Kiss the guitars are really the power.

AM: With regards to the Kiss logo, I believe that ever since the first tour you have taken out the traditional one comprised of steel and (light) bulbs. But this time you opted to go with a silver (fabric) of some sort. I wanted to know what prompted you to make that switch?

PS: Well we didn't want to do the exact same thing again which would have been to lower the Kiss sign at the end of the show, or to bring it up. (Also), since the Kiss sign tends to be so large, it limits what else we can use. On (the) Hot In The Shade (Tour) we managed to make it work. (So we had) the sphinx head, and the logo behind it. But we wanted to try something different this time.

AM: Well it certainly looks great, because it (i. e. the logo) seems to turn different colors as the light shines on it. Now I know you have a difficult time choosing a set list, (but) how is it that you go about deciding exactly what songs you're going to use?

PS: We first figure out what we want to get rid of, because you can't just keep adding. What we tried to do this time is not think that there are certain songs that we must play. When you have seventeen or eighteen albums out, and say that these are the songs we must play, (then) that's almost the whole show. If you have two songs from each album you already have thirty-four songs.

AM: Well you seem to have dropped quite a few since the beginning of the tour. I think a highlight of the show is during Take It Off when the strippers come on stage. . .

PS: Well we've been doing Take It Off almost every show. But what happens before the show (is) we check to see the strippers. We had strippers traveling with us, but what we have to do at this point every night is to check the strippers who come in. For instance, last night they were horrible. They were embarrassing.

AM: You took them out on the road from the beginning (of the tour).

PS: Yes, but now we sent them home.

AM: Now you just have local ones auditioning.

PS: Yeah, so they will show up before the show, and we'll look at them. Depending on whether they're good or bad we'll decide whether or not to do the song. Last night it was very clear to us that we weren't going to do the song.

[Note that of the final four shows on the Revenge Tour in the United States the band performed Take It Off in Oakland, California (on 12/18/92) and Phoenix, Arizona (on 12/20/92), but decided not to perform it in Sacramento, California (on 12/16/92) and San Bernardino, California (on 12/19/92).]

AM: With respect to Black Diamond, there was talk about Eric Singer possibly singing that.

PS: Well Eric was just talking about that last night. He wants to sing it in Phoenix. Eric is actually a very good singer. It is surprising that we've had a certain amount of luck, because all the drummers we've had have these raspy, ballsy voices. It's a bonus with Eric, because I think we would have taken him even if he couldn't sing. As it turns out there are times that he sounds like Rod Stewart.

AM: (Paul), Gene has certainly talked about the pranks that Eric Carr used to pull on him. Can you talk about any pranks that Eric pulled on you that you can recollect?

PS: Eric's whole attitude was (one in which) he saw everything as a cartoon or a skit. He would elaborate on things going on around him. I can remember times in the dressing room before the show when everybody was getting ready, (and) he would make himself up like Frankenstein. There are photos of him with his nostrils painted big, and scars on his face. This would be just before we'd go on stage. (So) he would have to wipe it off. He was a very, very funny guy.

AM: With respect to The Best Of Solo Albums, did you or Gene have any say as to what songs would be included on that compilation record?

PS: I didn't.

GS: We didn't even know about it until years after it came out.

AM: After you released Smashes, Thrashes & Hits, the promotional shirts that were (subsequently) released with the album cover on the front had "LIVE TOUR '89" printed on the back.

GS: Never saw it.

AM: I asked Bruce about this during the last tour. He said that initially you did want to tour for that album, and then you decided not to do so.

[Note that I asked Bruce this same question during our interview in San Bernardino, California on 12/19/92 when he recanted his previous response, and claimed that the band did not plan to tour in support of Smashes, Thrashes & Hits. Refer to the said interview with Bruce for further details.]

PS: I don't think so.

GS: The reason we didn't tour for that record is we were designing the cover in Paris, France while we were on tour. We were just finishing up a tour. Do you remember that (Paul)?

PS: Yeah, we were finishing the Crazy Nights Tour so there was no way we were going to tour. Actually, Smashes, Thrashes & Hits was released as an album when we knew we weren't going to be touring.

[Note that the next day I took a Smashes, Thrashes & Hits promotional t-shirt to the hotel Kiss were staying at. As Paul was inspecting the back of the t-shirt he stated that he now recalled seeing the shirt before. He made no further comments. I also handed Gene the said shirt as he arrived at the Oakland Coliseum later that night so he could analyze it at his convenience.]

AM: Could you please state how the production styles of Ron Nevison and Bob Ezrin differ?

PS: Ezrin is much more ballsy. He's also a songwriter, and a real schooled musician. If he's kept from getting too symphonic, he's very atmospheric. He can help to create something that has a real atmosphere, and a real menacing quality. Ron is much more polished. . .

GS: Pop.

AM: Paul, a lot of my friends say that Crazy Nights is in certain respects your second solo album.

PS: I don't really, because if it had been there is a lot of stuff that wouldn't have been on it. Every album you do you make concessions. Not only in terms of (the) band's material, but certainly there are songs that I wouldn't have done on my own solo album that I would do on that. A solo album should be more personal. (So) where a band album is a group effort, a solo album has to reflect

something a little more intimate.

AM: Gene, I can recall an interview in 1987 in which you stated that you were working on your next solo album, and so was Paul. I wanted to know if you have any plans to release a solo album at this point?

GS: Who quoted me as saying that I was working on a solo album?

AM: No, you stated in an interview. . .

GS: Which interview?

AM: It was an interview you did in England.

[Note that at this point Gene does not believe there is any credibility to the statement I had made. He looked across the table at Paul and said,]

GS: See how the stories change. Like yesterday we were playing New Year's Eve in Japan. Maybe Paul was beginning to work on a solo album in 1987.

PS: Never even. . .

AM: Well you (i. e. Gene) said that it would be coming out in 1988.

GS: We never entered the studio, or even wrote songs for it. In 1987 we were. . .

AM: It was during the promotional tour of Europe that you were doing for Crazy Nights.

GS: Maybe what people were talking about was how we got solo records as part of our deal.

[Note that the interview herein being discussed appeared on the Fifteen Years On picture compact disc. The next day I took a cassette copy of the said interview to the hotel Kiss were staying at. After playing the part of the interview in which Gene talks about the solo albums in question for Paul, he commented by stating, "Interesting." That night I also gave Gene the cassette copy of the interview before the show in Oakland. After explaining to him the content of the cassette and what it pertained to he smiled and said, "I believe you."]

AM: The new record has an interesting album cover. Personally, the way I have perceived it is (that) it represents the "Kiss machine" and the "Kiss entity," how it has lasted twenty years, gone through numerous battles, and (how) people have been taking "shots" at it so to speak. Is that what it's supposed to signify?

PS: Yeah, in a way. It's something that's worn, tattered, and "shot at." But (it is) still made of steel.

GS: (Paul), I don't know how much time you're allowing yourself for the airport, but you're going with rush hour.

[Note that Paul had to go to the airport to pick someone up, whom I believe was Paul's wife, Pamela. So I decided that it would be courteous to conclude the interview at this point.]

AM: I would like to thank both of you for this interview. Thank you so much.

PS: Thank you.

GS: Are you gonna send us copies?

AM: If you (would) like.

GS: "If you (would) like." Are you kidding!

I would like to take this opportunity to thank the following individuals:
GENE SIMMONS, PAUL STANLEY, Andre Augustine, Ken Jones and Lasima Pinkney.